

テーマリサーチ型 ゼミナール

科目名・クラス	ゼミナール（テーマリサーチ）LA
開講期間	通年
単位数	4単位
配当回生	3回生
担当者	服部 健二
講義内容・テーマ	<p>歴史と思想「他者問題と文化理論」</p> <p>いわゆる「日本文化」論や「比較文化」論をめぐる諸文献を手掛りに、他者問題を考える。</p> <p>ちなみに現在の三回生には、傷害者問題、西洋音楽論、茶、道教、国際行為体におけるアイデンティティ、人間関係論、仏における日本文化などを扱うものがある。</p>
評価方法・基準	<p>日常点（出席状況、小レポートの提出状況、ゼミでの議論への参加状況、その他の企画への参加状況など）の評価を加味し、各 Semester 末のレポートと論文（別のゼミで論文を書く場合は単位取得のためのレポート）によって評価する。</p>
テキスト	
その他	<p>いろいろな意味での他者との出会いの困難さや喜びをめぐる諸問題に関心のある学生。現代社会の具体的諸問題の一つとしての他者問題に理論的関心だけでなく実践的関心のある学生。</p>

科目名・クラス	ゼミナールⅠ（テーマリサーチ）LB ＜異類＞の思想と文芸
開講期間	通年
単位数	4単位
配当回生	3回生
担当者	伊勢俊彦
講義内容・テーマ	<p>「異類」とは、もともと、「人間でないもの」を意味する。動物や妖怪変化のたくいである。これらのものは、思想や文芸において、支配と征服、あるいは嫌悪と恐怖の対象として描かれるとともに、異類ならざる「われわれ」の本性を映し出す鏡としても機能してきた。</p> <p>本ゼミナールでは、「異なるもの」の描かれ方に注目することを通じて、「われわれ」が何者であるかを検討する。そのさいの「異なるもの」は、動物や妖怪に限らず、人間であっても「われわれ」でないもの（たとえば『ガリヴァ旅行記』におけるヤフー）や、心を持つ（？）ロボット、さらには神その他の霊的存在も含まれる。また、「異なるもの」の表現とし</p>

	<p>て取り上げるものは、哲学や文学のテキストに限らず、絵画、演劇、映画、マンガなどが含まれてよい。</p> <p>授業では、共通するテキストの読解、個人ごとの論文作成へ向けた指導の他、グループ単位でのプレゼンテーションなど、複数の形態の作業を組み合わせて、想像力の活性化と認識の深化を目指す。</p>
評価方法・基準	<p>レポート（50％）と平常点（50％）による。</p> <p>レポート：学術論文としての条件に一致した構成、問題設定の妥当性、主張の明確さを重視する。</p> <p>平常点：文献講読、発表、討論を含む、通常の授業への取り組みについて評価する。</p>
テキスト	<p>フィリップ・K・ディック『アンドロイドは電気羊の夢を見るか』朝倉久志訳、早川書房。</p> <p>他、英語、日本語（場合によってはその他の言語）のテキストを適宜組み合わせる。</p>
その他	<p>ゼミナールに関するウェブサイトを下記に設置したので、適宜参照のこと。</p> <p>http://www.geocities.jp/ise_kyoto/strange/index.html</p>

科目名・クラス	ゼミナールⅠ（テーマリサーチ）LC 現代中国の文化を考える
開講期間	通年
単位数	4単位
配当回生	3回生
担当者	宇野木洋（前期）・岡田英樹（後期）
講義内容・テーマ	<p>現代日本に生起する問題を考えるとき、隣国中国の問題を無視しては語り得ないであろう。それは1980年代に入って「改革・開放」政策の下に、経済発展の道を走り続ける中国の動向を無視できないという意味にとどまらず、「戦争責任」、「歴史認識」のありようが常に問い返されるといったことに示される、過去の日中関係から無縁ではられないという事実をも意味している。</p> <p>こうした現代中国の問題を、日本とのかかわりを通して考えてみたい。ただし、問題の範囲を「文化」という範疇に限定したい。文学、演劇、映画、テレビ、音楽、スポーツといった諸分野から問題を掘り起こし、現代中国が抱える問題を考察する。地域的には、中華人民共和国に限定せず、台湾や東アジアを含む中国語文化圏を対象とする。</p>

	<p>授業の大まかな進め方は、以下のように考えている。</p> <p>3回生前期(宇野木担当): それぞれが関心あるテーマにかかわる文献(日本語・中国語)を選定し、その内容をまとめて報告する。</p> <p>3回生後期(岡田担当): 何を言いたいのかという論文の主旨をまとめて報告する。</p> <p>4回生前期(岡田担当): 論文の構成を考えて骨子をつくり、論の流れを発表する。</p> <p>4回生後期(宇野木担当): 卒業論文の完成に向けて、中間発表・個別指導を行う。</p> <p>3回生の持ち上がりゼミとし、2年間で完了する。</p>
評価方法・基準	各セメスターごとに上記の課題に沿ってレポートを提出してもらい、その内容と、ゼミ発表を軸に評価を行う。
テキスト	使用しない
その他	08年度後期に、宇野木が在外研究員として北京に滞在することを予定している。中国でのフィールドワークを指導・援助することが可能であり、問題意識・課題を持って、調査に出かけられるよう指導するつもりである。

科目名・クラス	ゼミナール (テーマリサーチ) LE 「奄美・沖縄の文化に学ぶ」
開講期間	通年
単位数	4単位
配当回生	3回生
担当者	真下 厚
講義内容・テーマ	<p>奄美・沖縄地方は自然環境や歴史が本土地方と異なり、独自の王朝文化や地域ごとに異なる多様な民俗文化、さらには現代の個性的な都市文化を育んできました。人々は厳しい自然のなかでこうした文化を生み出し、豊かな知恵を今日に伝えています。</p> <p>このゼミではこうした奄美・沖縄の文化に学び(「文化を学ぶ」ではなく)その人間・社会・文化について考えようとするものです。</p> <p>ゼミ生諸君は琉球王朝の伝統文化、奄美・沖縄・宮古・八重山各地域の民俗文化、奄美や沖縄の現代文化の具体的な事象を自らの研究対象として2年間取り組み、フィールドワークも行って人や社会とも関わらせながら考察し、卒業論文に結実させてもらいます。</p>

	<p>現在のゼミ生のテーマのいくつかを紹介しますと、「沖縄県の高校野球」「奄美喜界島方言の現状」「沖縄・長寿世界一の食文化」「沖縄の紅型 伝統工芸の文化」「首里城内の生活 食と女性の生活」「沖縄の暮らしと風水」「沖縄の葬法」「沖縄の魔よけとシーサー」「チャンプルー文化 沖縄市のインド人社会」など、多様で多面的な内容です。</p> <p>このようにさまざまな関心を抱いた人たちが集まって、それぞれのテーマについて活発な議論を重ね、問題を深めてゆくことができればと考えています。</p> <p>このゼミを構想したのは長年にわたって行ってきた奄美・沖縄の島じまでのフィールドワークを通して、わたくしが集落のカンツカサ（ウタキの神をまつる女性司祭者）や古老、集落のリーダーや青年たちなど、地域の人々から多くのことを教わり、学んできたことによります。こうした体験を学生諸君も経験し、地域の社会や文化、そして人々の生き方に学んでくれればと思うからです。こうしたことこそが現在のグローバリズムの状況において重要なのです。</p> <p>奄美・沖縄・宮古・八重山の歴史・文化や社会、人々に深い関心をもつ学生諸君の参加を期待しています。</p> <p>なお、このゼミは3・4回生合同のゼミとして行います。</p>
評価方法・基準	前期・後期のレポート及びゼミでの発表・質疑・意欲などを総合的に評価します。なお、出席については毎回出席が原則です。
テキスト	なし。 なお、担当者の著書『声の神話 奄美・沖縄の島じまから』（瑞木書房、2003年）は参考文献として読んでくれればと思います。
その他	講義内容などの詳細について質問があれば、以下のアドレスにメールで問い合わせてください。 メールアドレス amt02969@lt.ritsumei.ac.jp

科目名・クラス	ゼミナール（テーマリサーチ）LF 「京都から発信する 京都文化学」
開講期間	通年
単位数	4単位
配当回生	3回生
担当者	中本 大 ・ 三枝 暁子
講義内容・テーマ	テーマは「理想的な京都の景観を探究する」です。本年九月、京都市では新景観条例が施行されました。「眺望景観」や「借景」といった画期的な視点を盛り込み、観光客からは概ね好意的に迎えられたこの条例をめぐる、

京都市在住の市民を中心に、官民巻き込んでの多くの議論が白熱し、施行以後も特に規制地域の住民の不満が燻り続けていることは否定できません。

京都における理想的な景観とはどのようなものなのでしょうか。「京都らしい風景」と言ったとき、多くの人が思い描くイメージは同一のものなのでしょうか。「景観」についての明確な定義がないままでは議論も平行線、有効な解決策が見出せるはずありません。このゼミでは人文的知見に基づき、「京都における理想的な景観」を追究することを最大の目的とします。立命館大学には「京都学」に関連する講義科目を掲げる学部がいくつかあります。その多くは「町づくり」や「観光」に関係するもので、たとえば理工学部では環境工学に基づく景観の形成や防災に強いまちづくりの提案を、政策科学部や産業社会学部では行政や企業、地域住民・市民団体の連携による、京都の魅力を発信するための自発的取り組みを促進する提言を目的とした授業が行われています。その中の幾つかはマスコミにも取り上げられ、広く内外の注目や支持を集めているものもあります。

文学部開講のこのTRSではそうした成果に敬意を払いつつ、人文的知見を最大限にアピールすることで、「京都」が抱える根深い景観問題を検討、解決する糸口がないかを考察していきます。「京都」は長い「歴史」と「伝統」に彩られていると言われます。当然、理想的景観とはそうした背景に基づくであると、人々は考えるでしょう。では「歴史」や「伝統」に基づく絶対的価値をもった、誰の目から見ても納得できる正しい「景観」など存在するのでしょうか。この授業では「京都」に関係する人々が「景観」をどのように捉えてきたか、つまり「京都」をめぐる人々の景観把握の歴史を理解することによって、「景観」に寄せる人々の期待やこだわり、逆に誤解や反感などに関する具体的事象や問題点を整理し、「京都」に寄せるあらゆる思いの丈を分析することで、現在に至る「京都の理想的な景観」のイメージがいかに形成され、描かれてきたのか、その仕組みやカラクリを人文的に明らかにしていくことを目的とします。「京都」において景観認識が有効に議論できないのは、地域住民や行政、あるいは観光客が思い描く「景観」のイメージ　つまり理想の「京都」像がバラバラであることが最大の要因なのではないか、そしてそのギャップや考え方の溝をうめるものこそが、人文的視野に立った京都学の成果なのではないか……このゼミでは、これまで大学で学んできた人文的研究手法を最大限活かして問題について提言することを最終目標とします。

歴史や文学などに興味があるものの、そうした研究成果を自己で完結してしまうのはもったいないと考えている学生諸君の積極的な受講を期待しています。

評価方法・基準	個別の問題意識や提起の有用性を重視しながらも、共同作業やフィールドワークなどの立案等、ゼミ全体の成果達成への貢献度も高く評価します。
テキスト	使用しません。参考文献については授業中に適宜、紹介します。
その他	志望理由書のテーマは、「あなたの考える最も京都らしい風景とは何でしょうか。写真等を添付し、具体的に説明してください」とします。多くの志望を鶴首しております。

科目名・クラス	ゼミナール（テーマリサーチ）LG
開講期間	通年
単位数	4単位
配当回生	3回生
担当者	藤巻正己
講義内容・テーマ	<p>テーマ「『旅の経験』からエリアスタディへ」</p> <p>このゼミは、受講生それぞれの「旅の経験」を契機として、自身の関心を引き起こし、対象化された国や地域（そこに暮らす人々）に関する人文学的地域研究をめざしている。</p> <p>担当者の関心はマレーシアを中心に、東南アジアに向けられているが、受講生諸君の対象地域は東南アジアに限定されるものではない。また主題については、文学・歴史・文化・地理・民族・ツーリズム等々いずれも問わない。受講生諸君の関心あるフィールド（国や地域）を対象に、各自の関心領域（あるいは切り口）から、オリジナルなエリアスタディ作品の制作を目指す。</p>
評価方法・基準	<p>前期・後期における授業中の口頭発表・夏期休暇中の調査研究レポート等により、総合的に評価する。</p> <p>2009年度においては、卒業作品の制作に向けた取組みを行う。</p>
テキスト	とくに定めない。授業開始時に、いくつかの推奨文献をとりあげる。
その他	このゼミでは、座学だけによるのではなく、フィールド経験にもとづいた研究が期待される。

科目名・クラス	ゼミナール（テーマリサーチ）LH
開講期間	通年
単位数	4単位
配当回生	3回生
担当者	矢藤 優子
講義内容・テーマ	<p>[文学における親子関係]</p> <p>ヒトの発達は、個体自身が持つ生得的要因と、養育者を始めとす</p>

	<p>る家族関係，仲間関係の要因，および社会，文化的環境要因との複雑な相互作用の下において営まれる。とりわけ、最も初期の社会的環境としての養育者とのかかわりは，のちの対人関係のあり方や社会・文化に対する価値観を規定する重要な要因となると考えられる。そのような発達初期における親子のかかわりは、文化的・歴史的な視点からも普遍性のある重要なテーマであるといえるだろう。</p> <p>本演習では，文学作品や歴史の中に登場する親子関係にまつわる研究を幅広く取り扱い、心理学的知見を交えながら考察する。研究文献の輪講，研究計画の立案，発表およびディスカッションを通して，各自が関心を持ったテーマについて領域架橋的に斬新な視点で調査研究を行い，卒業論文としてまとめる。</p>
評価方法・基準	出席状況・平常点
テキスト	
その他	

科目名・クラス	ゼミナール（テーマリサーチ）LI
開講期間	通年
単位数	4単位
配当回生	3回生
担当者	須藤直人
講義内容・テーマ	<p>「太平洋における移動と混交：比較文学・文化の視座」</p> <p>アイヌ人の村を訪れた英国人女性の旅行記、パラオに住んだ日本人作家の小説、南太平洋での従軍体験を持つ米国人作家による小説の映画版、米国のアニメーションをヒントに描かれた「南の島」を舞台とする日本の漫画、日本を旅行したサモア人作家の詩、パプア・ニューギニアで生まれ育ったトンガ人作家のエッセイ、ハワイのコリア系作家が描く日本、…。環太平洋地域と太平洋諸島域とを合わせた「太平洋世界」における、植民地支配・戦争・調査・開発・ビジネス等を契機・背景とした移住・旅・観光等の移動と「人種」的・文化的混交は、テキストにどのように刻印されているのだろうか。</p> <p>近現代の日本を取り巻く多様な世界観に触れ、それらの形成についてよく考え、自らの世界観の成り立ちを知り、位置付け、相対化してゆくことを目的とする。</p>

	前期:比較的読み易い文章を通して基本的知識・考え方を習得する。 後期:前期で得た知識を生かしてテキスト(作品)を扱う。
評価方法・基準	レポート 50%、プレゼンテーション 40%、授業貢献 10%。
テキスト	コピーを配布する。基本的には日本語。英語文献をどの程度使用するかは受講生の意見を聞いて決めたい。
その他	

科目名・クラス	ゼミナール (テーマリサーチ) LJ
開講期間	通年
単位数	4 単位
配当回生	3 回生
担当者	村島義彦
講義内容・テーマ	<p>「教育トピックへの新たな眺め直し」という大テーマの下で、個々の学生の問題意識に沿った小テーマを、各自で設定してもらおうと考えている。</p> <p>たとえば「校舎」「修学旅行」「制服」などを取り上げて、これらを、過去・現在・未来という大きな時間の流れに位置づけながら、時代的背景にも配慮しつつ、当初の時点でのそもそもの狙い、変遷をへた今の時点での姿、これからの時点で選び取られる展開の幅などを吟味するのも、一つの方向かもしれない。</p> <p>扱われる問題がかなり多岐に亙ると思われるので、テーマに応じて、適宜、さまざまなコーチに指導と助言を仰ぐ予定でいる。</p>
評価方法・基準	出欠、レポート、発表、論文等々をトータルして評価する。
テキスト	必要に応じて連絡する。
その他	教職を希望する学生で、前向きな意欲に溢れた人物の参加を希望しています。

科目名・クラス	ゼミナール (テーマリサーチ) LK THEMES IN ASIAN STUDIES
開講期間	通年
単位数	4 単位
配当回生	3 回生
担当者	DIANE HARING
講義内容・テーマ	In this course we will study recent events in Asia and discuss the historical, political, economic & social background of these. We will

	<p>read about current events in East Asia (China, Japan, Korea), South and Southwest Asia (India, Pakistan, Afghanistan) and Southeast Asia (Vietnam, Thailand, Indonesia, Malaysia) and analyse why these events are happening now.</p> <p>The first semester will focus mainly on the history of these areas. We will study about contact with foreign cultures, trade, religious travel, and colonialism. The second semester will focus on more recent themes in Asia, including nationalism, women and minority rights, and economic and social “globalization” as it effects Asia. The aim of the course is to allow students to understand both the history of these regions, and how this history is continuing to unfold now.</p> <p>Students will be able to explore the whole field of Asian Studies throughout the two semesters to discover which area and theme they are particularly interested in. Students will then be able to choose their own particular research area and theme by the end of this course. This research theme will be the focus of students fourth-year thesis. Research may be done in Japanese but all classes will be conducted & all writing must be done in English.</p>
評価方法・基準	Grading will be based on class participation and weekly reading assignments (40%), and a final oral presentation of each student s particular research theme, including a written paper that presents the details of this theme (60%).
テキスト	There is no assigned text. Weekly reading assignments will be supplied.
その他	

科目名・クラス	ゼミナール (テーマリサーチ) LL
開講期間	通年
単位数	4 単位
配当回生	3 回生
担当者	石井 芙桑雄 ・ 嘉瀬 達男 ・ 下川 茂
講義内容・テーマ	<p>テーマ：世界の文化と多言語多文化社会における共生</p> <p>講義担当は石井、下川、嘉瀬が共同で行う。前期には石井・下川がドイツ・</p>

	フランスを主とするヨーロッパ、嘉瀬が中国を主とするアジアの文化について講義を行う。具体的には、日本と各国との文化交流、EU の現状、多民族国家の実情と課題、ヨーロッパにおける移民の現状、中国における西洋文化の受容、日本の華僑社会などとなる予定である。その上で、受講生はグループもしくは個人で興味のある文化現象や社会現象について、主として文献や新聞等による調査発表をしてもらい、クラスでの議論に委ねる。夏期休暇中は受講生が実際に外国に行き異文化体験やフィールドリサーチを行うか、日本国内にある異文化世界を調査する。場合によっては教員の指導のもとで文献リサーチもありうる。後期には、夏期休暇中の調査の成果について順次受講生が報告発表し、討論を行う。また、担当教員がその内容に即した補助的な講義を行い、次年度への展開を話し合う。二年目の四回生の卒業論文についての指導も担当者三名が共同で行う。
評価方法・基準	試験に代わるレポートおよび平常点評価
テキスト	授業中に適宜指示する。
その他	

科目名・クラス	ゼミナール（テーマリサーチ）LN 意識の人間学（心の人間学）
開講期間	通年
単位数	4 単位
配当回生	3 回生
担当者	林 信弘
講義内容・テーマ	本ゼミのテーマは、人間のどうしようもない分裂・矛盾・葛藤状態とどうつきあっていくのかという根本的な人間学的課題を「意識研究」の立場から探究していくことにある。 受講生数は 8 名程度とし、また 3 回生に限定する。 ゼミの一環として、坐るメディテーションとしての坐禅実習を組み入れることもありうるので、精神的に軸のある受講生を期待する。
評価方法・基準	日常点評価
テキスト	林 信弘『意識の人間学』（人文書院）
その他	

科目名・クラス	ゼミナール（テーマリサーチ）L0
開講期間	通年
単位数	4 単位

配当回生	3回生
担当者	加藤政洋
講義内容・テーマ	<p>《周縁からの都市論》</p> <p>近代期以降の都市空間の編成 / 再編成の過程で市街地の周縁部(インナーエリア)に創り出されたさまざまな場所 貧民街(スラム)、盛り場・歓楽街、遊廓・花街、商店街、戦後の闇市、スクウォッター、赤線・青線地区、特殊飲食店街など を通じて、都市に固有の「空間と社会」の関係を考察してゆきたいと思います。またここには、具体的な場所へのこだわりを持ちつつ周縁性(マージナリティ)や少数者(マイノリティ)に関わる問題も含まれます。</p> <p>都市空間の形成過程において「周縁」的な場や事象が持つ意味を具体的に考察するため、さしあたり身近な京都・大阪・神戸あたりを、また時には東京やその他の地方都市をフィールドとし、学術的な文献を精読するだけでなく、文学作品・映画といった文化的媒体や地域情報誌なども分析・読解するほか、実地調査(街歩き、聞き取りといったフィールドワーク)も積極的に取り入れてゆく予定です。</p> <p>本ゼミでは、とにかく歩けや歩け、街歩きを通じて、都市的現象を観察することに重きをおいています。三回生の前期に最低3回の街歩き、そして夏休みには3泊4日で調査旅行に行きます。一昨年は那覇、そして昨年は東京に行きました。したがって、前期は個人のテーマを追究しつつ、夏休みに実施する調査の準備にも、相当の時間を割くことになります。来年度も、ゼミとしての継続性を考え、那覇か東京、あるいは三回生の意見も踏まえ、県庁所在地クラスの都市を対象にする予定です。</p> <p>夏休みから後期にかけては、卒業研究に本格的に取り組むこととなります。現3・4回生は次のようなテーマを設定しています。</p> <p>ラブホテル街の形成過程 東京・渋谷、京都・岡崎の事例 コリアタウン化する花街 大阪・今里新地の事例 伝統的花街の景観変容 京都・祇園の事例 ライブハウスの空間文化誌 京都の事例 上京物語 J・P o pの分析 チャイナタウンの発見? 競馬場の周辺環境 京都競馬場の事例 盛り場のガイドブック製作 大阪・新世界 文学作品の地理学的分析 織田作の大阪</p>

	<p>ちなみに、担当者の目下の関心は、戦前の遊廓と戦後の買売春街の連続性（光文社新書、近刊）、モダン神戸の盛り場（神戸新聞出版センター、近刊）、失われた花街の探訪（山海堂、近刊）、那覇の都市空間誌です。</p> <p>他にも色々とテーマは考えられますが、周縁的な場 に焦点を合わせる、というスタンスを大切にしてください。本演習における調査・研究を通じ、都市のオルタナティブな側面に光を当てることができれば、と考えています。</p>
評価方法・基準	ゼミにおける報告内容、各自ノ共通のテーマの掘り下げの度合い（レポートの完成度など）に加えて、調査、フィールドワークへの取り組みから総合的に判断します。なお、無断欠席は認めません。
テキスト	<p>参考文献（さしあたり、担当者の著書にはどれかひとつでも目を通しておくこと）</p> <p>東浩紀・北田暁大『東京から考える』NHKブックス、2007年。</p> <p>加藤政洋『大阪のスラムと盛り場 近代都市と場所の系譜学』創元社、2002年。</p> <p>加藤政洋『花街 異空間の都市史』朝日選書、2005年。</p> <p>加藤政洋・大城直樹編『都市空間の地理学』ミネルヴァ書房、2006年。</p> <p>水内俊雄・加藤政洋・大城直樹『モダン都市の系譜』ナカニシヤ出版、近刊。</p> <p>吉見俊哉『都市のドラマトウルギー』弘文堂、1987年。</p> <p>吉見俊哉・若林幹夫編『東京スタディーズ』紀伊国屋書店、2005年。</p>
その他	

科目名・クラス	ゼミナール（テーマリサーチ）LS GISで考える環境と景観の歴史
開講期間	通年
単位数	4単位
配当回生	3回生
担当者	河角 龍典
講義内容・テーマ	<p>テーマ：GISで考える環境と景観の歴史</p> <p>GISとは、Geographic Information Systems(地理情報システム)の略で、簡単に言えば、コンピューターを使って様々なテーマの地図を描くシステムのことです。このゼミナールでは、GISを使いながら環境や景観の歴史について考えます。分野で言えば、歴史GIS、考古学GIS、遺跡GIS、環境考古学GISといった分野になりますが、これらに限らず、過去の環境や景観に関する空間情報ならなんでも対象にすることが可能です。講義内容のキー</p>

	<p>ワードは、次の通りです。デジタルアーカイブ、3次元ビジュアライゼーション、空間分析、人と自然の関係史、景観復原、GIS、リモートセンシング、デジタル写真測量、3次元コンピューターグラフィクス、バーチャルリアリティー。具体的には、次のような研究対象の例が考えられるでしょう。</p> <p>歴史都市の街並みの変遷や景観復原 遺跡の立地解析、古環境復原、景観復原 遺跡の発掘調査情報のデジタルアーカイブ 歴史災害情報の分析と可視化</p> <p>技術的な事柄については初歩的なことから講義・実習を行います。このクラスは3・4回生合同ゼミです。前年度のテーマは、都市と村落の環境史です。担当教員の専門は、地理学・環境考古学です。地理学専攻や歴史学専攻、考古学ゼミの学生については、2つ目のゼミとして履修することを歓迎します。イノベーションPの人文系デジタルグラフィックの延長で履修してもらっても結構です。グローバルCOEプログラム『日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点』に関心のある学生も歓迎します。</p>
評価方法・基準	<p>評価は、出席（20%）、口頭発表・討議などゼミへの参加度（30%）、レポートなどの提出物（50%）で行う。3回生時には、GISの基本技術を習得し、4回生の最後に提出する卒業論文のテーマを設定する。3回生末には研究成果としてレポートを提出してもらいます。</p>
テキスト	<p>とくにありません。</p> <p>参考文献：矢野・中谷・磯田編『バーチャル京都』、ナカニシヤ出版、2007年</p>
その他	<p>なお、研究成果は、卒論論文形式として提出してもらいます。</p>

科目名・クラス	ゼミナール（テーマリサーチ）LU
開講期間	通年
単位数	4単位
配当回生	3回生
担当者	田中省作
講義内容・テーマ	<p>「リーディング」を科学する</p> <p>「リーディング（読み）」は人間の最も基本的な言語活動の一つであり、リーディングの認知メカニズム（言語処理）、リーディングによる効率的言語習得（言語教育）など、その研究は多様な分野にわたる学際的なものである。本演習では、そのリーディングをゼミ担当者の専門領域である言語学・言語教育学・情報学的観点からとらえ直す。そして、受講者自身で具体的な研究テーマを設定し、リ</p>

	ーディングについての見識を深めていく。テーマの例としては、「文書の読みやすさ（リーダビリティ）」には文章のこういった要因がどの程度の重みで関わるのか（リーダビリティ研究）や、外国語習得のための多読学習に関する研究などが考えられる。
評価方法・基準	出席，最終成果，ゼミへの参加状況で総合的に判断する。
テキスト	指定しない
その他	現 TRS ゼミの Web ページ： http://www.cl.ritsumeai.ac.jp/ 能動的にテーマを設定し，本ゼミのリソースを活用しようとする積極的な学生を期待します。

科目名・クラス	ゼミナール（テーマリサーチ）LV 「韓流」映画を解析する
開講期間	通年
単位数	4 単位
配当回生	3 回生
担当者	佐々充昭
講義内容・テーマ	<p>韓国の映画・ドラマ・音楽などの大衆文化がアジアの各地で人気を博し、いわゆる「韓流」ブームが巻き起こっている。このゼミでは、今や日本でも大きな話題となっている「韓流」ブームについて、韓国政府の戦略的文化政策、東アジアのグローバル化や大衆消費文化の拡散、日本・台湾・中国・東南アジア諸国における流行現象の比較など、多面的な観点から研究を行う。特に日本では、「韓流」に反発する「嫌韓流」の動きが、出版物やインターネットを媒介として拡散しつつある。この「嫌韓流」の動向についても、近年東アジア三国（日・韓・中）で台頭しつつある文化ナショナリズムの観点から考察射程に入れたい。</p> <p>ただし、今回のゼミでは、特に韓国映画を対象を絞り込んで、「韓流」コンテンツに関する詳細な分析を行う。韓国の歴史や伝統、および現代社会の諸様相が韓国映画の中でどのように表現されているのか、その映像表象の在り方を解析することによって、現代韓国大衆文化の特質について考察する。</p> <p>前期では、主に朝鮮半島の近現代史を主題にした韓国映画を中心に研究を行う。各映画作品の中に描かれた歴史的・社会的背景や監督の製作意図のみならず、映画表象を通じた歴史的記憶の作法や潜在するナショナリズム的性向などについても読み取りたい。後期では、インターネット（特に韓国語 Web サイト）をツールとした情報収集を行い、「韓流」映画に関するグループ研究を行う。IT 先進国である韓国を専門的に研究する際には、今やインターネットの利用は必要不可欠である。インターネット</p>

	<p>を利用することによって、韓国現代社会におけるIT文化の発展とその特徴について理解すると同時に、メディア・リテラシーの問題についても実践的に熟考してみたい。</p>
評価方法・基準	<p>レポート・発表・出席状況などによって総合的に判断する。</p>
テキスト	<p>金鍾文『韓国映画躍進の秘策』パンドラ、2004年 石坂浩一『トーキング・コリアンシネマ』凱風社、2005年 川村湊『アリラン坂のシネマ通り』集英社、2005年</p>
その他	<p>本ゼミは、現代韓国の文化と社会について理解を深めることを目的とする。実際、ゼミの学習では、韓国映画を韓国語で鑑賞し、日本語の字幕翻訳との差異などについても分析を行う他、韓国語インターネット・サイトを頻繁に利用する。従って、入ゼミに際しては、韓国語の学習を必須条件とする。韓国語が出来ない初心者を歓迎するが、入ゼミ後は何らかの形で韓国語の学習を行うようにすること。</p>